

## 復活 等 I

ヨハネによる福音書 11：25～26

イエスは言われた。「わたしは復活であり、命である。わたしを信じる者は、死んでも生きる。生きていてわたしを信じる者はだれも、決して死ぬことはない。このことを信じるか。」

[KJV] Jesus said unto her, I am the resurrection, and the life: he that believeth in me, though he were dead, yet shall he live: →生命・希望などの復活

絶望の中、エリヤに懇願した貧しいフェニキア人、サレプタのやもめの子の復活 列王記上 17：21～23

彼（→預言者エリヤ）は子供の上に三度身を重ねてから、また主に向かって祈った。「主よ、わが神よ、この子の命を元に戻してください。」主は、エリヤの声に耳を傾け、その子の命を元にお返しになった。子供は生き返った。エリヤは、その子を連れて家の階上の部屋から降りて来て、母親（→シドンのサレプタのやもめ、貧しいフェニキア人）に渡し、「見なさい。あなたの息子は生きている」と言った。

	タイトル(書名)	章:節 聖句 【検索対象総数：11 / 聖句等の総数 33250 <生き返った>11個】	聖書Navi Active 393128091 (新共同訳) 【検索語彙：生き返った】
S	マタイによる福音書	14:2 家来たちにこう言った。「あれは洗礼者ヨハネだ。死者の中から生き返ったのだ。だから、奇跡を行う力が彼に働いている。」	
S	マタイによる福音書	27:52 墓が開いて、眠りについていた多くの聖なる者たちの体が生き返った。	
S	マルコによる福音書	6:14 イエスの名が知れ渡ったので、ヘロデ王の耳にも入った。人々は言っていた。「洗礼者ヨハネが死者の中から生き返ったのだ。だから、奇跡を行う力が彼に働いている。」	
S	マルコによる福音書	6:16 ところが、ヘロデはこれを聞いて、「わたしが首をはねたあのヨハネが、生き返ったのだ」と言った。	
S	ルカによる福音書	9:7 ところで、領主ヘロデは、これらの出来事をすべて聞いて戸惑った。というのは、イエスについて、「ヨハネが死者の中から生き返ったのだ」と言う人もいれば、	
S	ルカによる福音書	9:8 「エリヤが現れたのだ」と言う人もいて、更に、「だれか昔の預言者が生き返ったのだ」と言う人もいたからである。	
S	ルカによる福音書	9:19 弟子たちは答えた。『「洗礼者ヨハネだ」と言っています。ほかに、『エリヤだ」と言う人も、『だれか昔の預言者が生き返ったのだ」と言う人もいます。』	
S	ルカによる福音書	15:32 だが、お前のあの弟は死んでいたのに生き返った。いなくなっていたのに見つかったのだ。祝宴を開いて楽しむ喜びのは当たり前ではないか。』	
S	使徒言行録	9:41 ベトロは彼女に手を貸して立たせた。そして、聖なる者たちとやもめたちを呼び、生き返ったタビタを見せた。	
S	使徒言行録	20:12 人々は生き返った青年を連れて帰り、大いに慰められた。	
S	ローマの信徒への手紙	6:13 また、あなたがたの五体を不義のための道具として罪に任せてはなりません。かえて、自分自身を死者の中から生き返った者として神に献げ、また、五体を義のための道具として神に献げなさい。	

ギルボア山の南の小さな村シュネムの裕福な婦人の息子の復活 列王記下 4：32～37

エリシャ（→列王記上 19：16＝アベル・メホラのシャフトの子、預言者エリヤが召し出し、後継とした預言者）が家に着いてみると、彼の寝台に（シュネムの婦人の）子供は死んで横たわっていた（→the child was dead, and laid upon his bed）。彼（→エリシャ）は中に入って戸を閉じ、（その子供と）二人だけになって主に祈った。そしてエリシャは寝台に上がって、子供の上に伏し、自分の口を子供の口に、目を子供の目に、手を子供の手に重ねてかがみ込むと、子供の体は暖かくなった。彼は起き上がり、家の中をあちこち歩き回ってから、再び寝台に上がって子供の上にかがみ込むと、子供は七回くしゃみをして目を開い

た。エリシャはゲハジを呼び、「あのシュネムの婦人を呼びなさい」と言った。ゲハジに呼ばれて彼女がエリシャのもとに来ると、エリシャは、「あなたの子を受け取りなさい」と言った。彼女は近づいてエリシャの足もとに身をかがめ、地にひれ伏し、自分の子供を受け取って出て行った。

#### ナインのやもめの息子の復活 主はいつも私たちに顧みてくださる ルカによる福音書 7 : 12~15

イエスが（ナインの）町の門に近づかれると、ちょうど、ある母親の一人息子が死んで、棺が担ぎ出されるところだった。その母親はやもめであって、町の人が大勢そばに付き添っていた。主はこの母親を見て、憐れに思い、「もう泣かなくともよい」と言われた。そして、近づいて棺に手を触れられると、担いでいる人たちは立ち止まった。イエスは、「若者よ、あなたに言う。起きなさい」と言われた。すると、死人は起き上がったものを言い始めた。イエスは息子をその母親にお返しになった。

#### ヤイロの娘の復活 ルカによる福音書 8 : 49~55

イエスがまだ話しておられるときに、会堂長（であるヤイロ）の家から人が来て言った。「お嬢さんは亡くなりました。この上、先生を煩わすことはありません。」イエスは、これを聞いて会堂長に言われた。「恐れることはない。ただ信じなさい。そうすれば、娘は救われる。」イエスはその家に着くと、ペトロ、ヨハネ、ヤコブ、それに娘の父母のほかには、だれも一緒に入ることをお許しにならなかった。人々は皆、娘のために泣き悲しんでいた。そこで、イエスは言われた。「泣くな。死んだのではない。眠っているのだ。」人々は、娘が死んだことを知っていたので、イエスをあざ笑った。イエスは娘の手を取り、「娘よ、起きなさい」と呼びかけられた。すると娘は、その霊が戻って、すぐに起き上がった。イエスは、娘に食べ物を与えるように指図をされた。

#### モーセとエリヤの復活 ルカによる福音書 9 : 28~31

この話をしてから八日ほどたったとき、イエスは、ペトロ、ヨハネ、およびヤコブを連れて、祈るために山に登られた。祈っておられるうちに、イエスの顔の様子が変わり、服は真っ白に輝いた。見ると、二人の人がイエスと語り合っていた。モーセとエリヤである。二人は栄光に包まれて現れ、イエスがエルサレムで遂げようとしておられる最期について話していた。

#### ラザロの復活 ヨハネによる福音書 11 : 41~44

人々が石を取りのけると、イエスは天を仰いで言われた。「父よ、わたしの願いを聞き入れてくださって感謝します。わたしの願いをいつも聞いてくださることを、わたしは知っています。しかし、わたしがこう言うのは、周りにいる群衆のためです。あなたがわたしをお遣わしになったことを、彼らに信じさせるためです。」こう言ってから、「ラザロ、出て来なさい」と大声で叫ばれた。すると、死んでいた人が、手と足を布で巻かれたまま出て来た。顔は覆いで包まれていた。イエスは人々に、「ほどこいてやって、行かせなさい」と言われた。

#### 【参考】旧約聖書に見られる復活信仰

##### 1. ヨブ記 19 : 25~27

わたしは知っている／わたしを贖う方は生きておられ／ついには塵の上に立たれるであろう。この皮膚が損なわれようとも／この身をもって／わたしは神を仰ぎ見るであろう。このわたしが仰ぎ見る／ほかならぬこの目で見ると。腹の底から焦がれ、はらわたは絶え入る（→この体が朽ち果てた後、私は新しい肉体で神を見るであろう→聖書協会共同訳：この私が仰ぎ見る。／ほかならぬ私のこの目で見ると。／私のほらわたは私の内で焦がれる）。

2. 詩編 49 : 16 コラ（レビ族であり、モーセとアロンに反逆した人たち→民数記 26 : 9）の子の詩。しかし、神はわたしの魂を贖い／陰府の手から取り上げてくださる。

##### 3. 詩編 71 : 20

あなたは多くの災いと苦しみを／わたし（→ダビデ）に思い知らせられましたが／再び命を得させてく

ださるでしょう。地の深い淵から／再び引き上げてくださるでしょう。

4. イザヤ書 26 : 19

あなたの死者が命を得／わたしのしかばねが立ち上がりますように。塵の中に住まう者よ、目を覚ませ、喜び歌え。あなたの送られる露は光の露。あなたは死霊の地にそれを降らせられます。

5. ダニエル書 12 : 2

多くの者が地の塵の中の眠りから目覚める。ある者は永遠の生命に入り／ある者は永久に続く恥と憎悪の的となる。

**【参考】 アブラハムの息子イサクの復活** ヘブライ人への手紙 11 : 17~19

信仰によって、アブラハムは、試練を受けたとき、イサクを献げました（創世記 22 章）。つまり、約束を受けていた者が、独り子を献げようとしたのです。この独り子については、「イサクから生まれる者が、あなたの子孫と呼ばれる」と言われていました。アブラハムは、神が人を死者の中から生き返らせることもおできになると信じたのです。それで彼は、イサクを返してもらいましたが、それは死者の中から返してもらったも同然です。

	タイトル(書名)	章:節 聖句 [検索対象総数 : 6 / 聖句等の総数 33250 <生き返らせる>6個]	聖書Navi Active 393128091 (新共同訳) [検索語彙 : 生き返らせる]
K	ルツ記	4:15 その子はあなたの魂を生き返らせる者となり、老後の支えとなるでしょう。あなたを愛する嫁、七人の息子にもまさるあの嫁がその子を産んだのですから。]	
K	箴言	25:13 忠実な使者は遣わす人にとって／刈り入れの日の冷たい雪。主人の魂を生き返らせる。	
S	ルカによる福音書	◆やもめの息子を生き返らせる →7:11~17(ナインのやもめの息子の復活)	
S	ヨハネによる福音書	◆イエス、ラザロを生き返らせる →11:38~44(ラザロの復活)	
S	使徒言行録	◆ペトロ、タビタを生き返らせる →9:36~43(婦人の弟子タビダの復活)	
S	使徒言行録	◆パウロ、若者を生き返らせる →20:7~12(青年エウティコの復活)	

ユダの手紙 9 節  
大天使ミカエルは、モーセの遺体のことで悪魔と言い争ったとき、あえてののしって相手を裁こうとはせず、「**主がお前を懲らしめてくださるように**」と言いました。

**【参考】 モーセの死**

希望への光 P. 248 右部分 2 行目・・・もし、モーセの生涯が、カデシの岩から水を出す誉れを神に帰さなかったあの 1 つの罪で傷ついていなかったならば、彼は約束の地に入り、死を見ずに天に移されたことであろう。けれども、彼は長く墓の中にとどまらなかった。**モーセを埋葬したみ使いたちを従えて、キリストご自身が天からおりてこられ、眠りについた聖徒を呼び起こされるのであった。**

サタンは、モーセに罪を犯させ、彼を死の支配下に置くことができたのを大いに喜んでいました。サタンは、「あなたは、ちりだから、ちりに帰る」という神の宣告どおり、死者は自分のものだと言った(創世記 3:19)。墓の力は、かつて、打ち破られたことがなく、墓の中に入れられた者はみな自分のとりこであって、その暗い牢獄から解放することができない、と彼は主張した。

**このときはじめて、キリストは、死者に命を与えようとしておられた。いのちの君と輝く天使たちが墓に近づくと、サタンは自分の主権が脅かされるのを感じた。彼は悪天使たちと共に、自分のものと主張する領域を犯されまいとして抵抗した。サタンは、神のしもべが彼の牢獄に入れられたことを誇った。モーセでさえ、神**

の律法を守ることができず、主に帰すべき栄光を自分に帰し、サタンが天から追放されるに至ったのと全く同じ罪を犯して、そのために自分の支配下に置かれたのであるとサタンは言った。この反逆者の首領は、彼がかつて神の統治に対して投げた最初の非難をくり返し、彼に対する神の不正をつぐやいた。

キリストは、サタンと論争しようとはされなかった。キリストは、惑わしによって多数の天の住民を滅ぼした残忍な彼のしうちを非難することがおできであった。また、アダムを罪に誘い、人類に死をもたらしたエデンの欺瞞（→人目をあざむき、だますこと）を指摘することもおできになった。あるいは、イスラエルをいざない、不平と反抗にかり立てて、モーセの寛容と忍耐の緒を切らせ、無防備の一瞬について罪を犯させ、死の力のもとに陥れたことをサタンに思い起こさせることもおできになった。だが、キリストはすべてを天父に委ね、「主がおまえを戒めて下さるように」（口語訳）と仰せになった(ユダ 9)。キリストはサタンと論じられなかったが、そのときその場で、この墮落した敵の力を打ち破り、死者を生き返らせるみわざをお始めになった。ここに、サタンの言い争うことのできない神のみ子の権威が現された。永遠に復活が確かなものとされた。サタンは自分のとりこを奪われ、死んだ義人はふたたび生きることとなった。 P. 249 左部分

\*\*\*\*\*  
罪の結果、モーセはサタンの権力のもとに置かれていた。彼自身の功績によっては、彼は当然死の捕虜であった。だが彼は、贖い主のみ名の権威によって、永遠の命によみがえった。モーセは、栄光の体で墓から現れ出て、救い主と共に神の都にのぼった。

キリストの犠牲によって実証されるまで、モーセをあつかわれた神の方法ほどに、著しく神の正義と愛をあらわしたものはほかになかった。神は、忘れてならない教訓、すなわち、神は厳密な従順をお求めになるということ、また、人は創造主に帰すべき栄光を自分に帰してはならないということを教えるために、モーセをカナンから締め出された。神は、イスラエルの嗣業にあずからせてほしいというモーセの祈りを受け入れることがおできにならなかった。しかし彼は、ご自分のしもべを忘れてたり、捨てたりなさらなかった。天の神は、モーセが耐えてきた苦悩を理解し、争闘と試練の長い年月を忠実に仕えてきた 1 つ 1 つの行為をご存じであった。神は、ピスガの頂上で、地上のカナンとは比較にならないほど輝かしい嗣業にモーセをお召しになったのであった。

モーセは、天に移されたエリヤ（→列王記下 2 章）と共に変貌の山に現れた。彼らは、天父からみ子に光と栄光を伝えるためにつかわされた。こうして幾世紀も前に捧げられたモーセの祈りがついに果たされた、彼は、神の民の嗣業の中にある「良い山地」に立ち、イスラエルの約束がことごとく集中しているおかたについてあかしをした(申命記 3:25)。天の神に尊ばれたモーセが、歴史において、人間の目の前に現れたのはこれが最後である。

モーセはキリストの型であった。彼は、自らイスラエルに告げていた。「あなたの神、主はあなたのうちから、あなたの同胞のうちから、わたしのようなひとりの預言者をあなたのために起されるであろう。あなたがたは彼に聞き従わなければならない」(同 18:15)。イスラエルの群集を地上のカナンに導く準備をさせるために、神は、モーセを苦難と困窮の学校で訓練するのをよしとされた。天のカナンに向かう神のイスラエルには、天来の指導者としての務めを果たすのに、人間の教えを必要としない指揮官がおられる。だが、その彼も苦難を通して全うされ、こうして、「主ご自身、試練を受けて苦しまれたからこそ、試練の中にある者たちを助けることができるのである」(ヘブル 2:18)。われらの贖い主は、1 つとして人間的弱さや欠陥を表されなかったが、われわれが約束の地に入ることができるために、死なれたのであった。

「さて、モーセは、後に語るべき事らについてあかしをするために、仕える者として、神の家の全体に対して忠実であったが、キリストは御子として、神の家を治めるのに忠実であられたのである。もしわたしたちが、望みの確信と誇とを最後までしっかりと持ち続けるなら、わたしたちは神の家なのである」(同 3:5、6)。

P. 249

参考：希望への光 エレン・G・ホワイト 著 福音社